

素案

資料 2

住田町総合計画

令和 2 年度－令和 6 年度

【基本理念】

令和 2 年 3 月

住田町


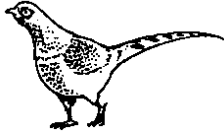

町民憲章

わたくしたちは
豊かな緑の山々と清流気仙川をこよなく愛します。
そして、住田の風土の中で培われて来たかおり高い伝統と
恵まれた自然を生かし
こころをひとつにして、豊かで住み良い町をつくるため、
ここに住田町民憲章を定めます。

- 1 わたくしたちは、ひとりひとりの創意と、恵まれた資源を生かし
勤労を尊び、産業の振興にはげみ
豊かな町をつくります。
- 1 わたくしたちは、ひとりひとりの個性を生かし
すすんで学習にはげみ、教養を高め
知性と実行力を身につける教育の町をつくります。
- 1 わたくしたちは、ひとりひとりの真心を生かし
幸せな生活ができるよう、互いに、きまりを守り助け合い
健康で明るい町をつくります。

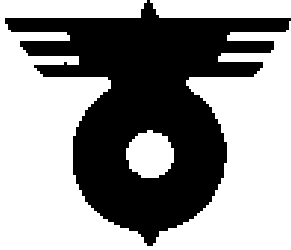
(昭和 50 年 9 月 8 日制定)

住田町の花・木・鳥

花 アツモリソウ	木 スギ	鳥 ヤマドリ
初夏、紫紅色の美しい花をつけ、山里を飾る「あつもりそう」人と自然の調和を図る温かい町民性を象徴している。	気品にあふれた銅褐色の羽毛で体をつつみ、長い尾をもつ「やまどり」こまやかな習性と飛翔迅速な姿は、かおり高い文化の振興を象徴している。	大空に向かってまっすぐに伸び、用材としても広くその価値を認められている「すぎ」緑の町として、さらに発展しようとする町の未来を象徴している。
		

(昭和 60 年 6 月 1 日制定)

町章



住田町の「す」の字を鳩と旭に図案化したもので、平和産業の町として旭日昇天の勢いで発展飛躍することを表徴したものです。

(昭和 31 年 10 月制定)

住田町民歌「幸せ創るまち」

作詞：倉科由加子

作曲：菅野由弘

- 1 流れさわやか いのちの水が
うたうせせらぎ 気仙川
生きるよろこび 育てる大地
森のみどりに やまどり飛んで
住田は豊かさ 招くまち
- 2 仰ぐ星空 心も澄んで
夢はひろがる まちあかり
あつもり草の 咲く山里に
ひとりひとりが ぬくもり抱いて
住田は明日を 拓くまち
- 3 山はふるさと 光の中に
杉の若木が 伸びざかり
望む五葉に 種山ヶ原
人と自然が 一つになって
住田は幸せ 創るまち

(平成 7 年 12 月 5 日制定)

目次

第1章 はじめに

第1節 本計画の位置づけ

第2節 計画の期間

第3節 計画の構成

第2章 住田町の現状と見通し

第1節 これまでの変化

第2節 今後の展望（人口ビジョン）

第3節 住田町ってこんな町

第3章 基本目標（ビジョン）

第1節 基本理念

第2節 基本的方向

第3節 重要業績評価指標（KPI）

第4章 政策分野の取組方向（アクションプラン）

第1節 「ひと」分野

1. 結婚・子育て 2. 教育 3. 健康 4. 福祉 5. 介護

第2節 「まち」分野

1. 環境 2. 住まい 3. 社会基盤 4. 交通 5. 安全
6. 地域コミュニティ

第3節 「しごと」分野

1. 農業 2. 林業 3. 商工業 4. 観光

第5章 重点施策（総合戦略）

第1節 「医」

第2節 「食」

第3節 「住」

第6章 行政運営の基本方針

第1節 現状と見通し

第2節 基本方針

第3節 取組方向（アクションプラン）

第1章 はじめに

第1節 本計画の位置づけ

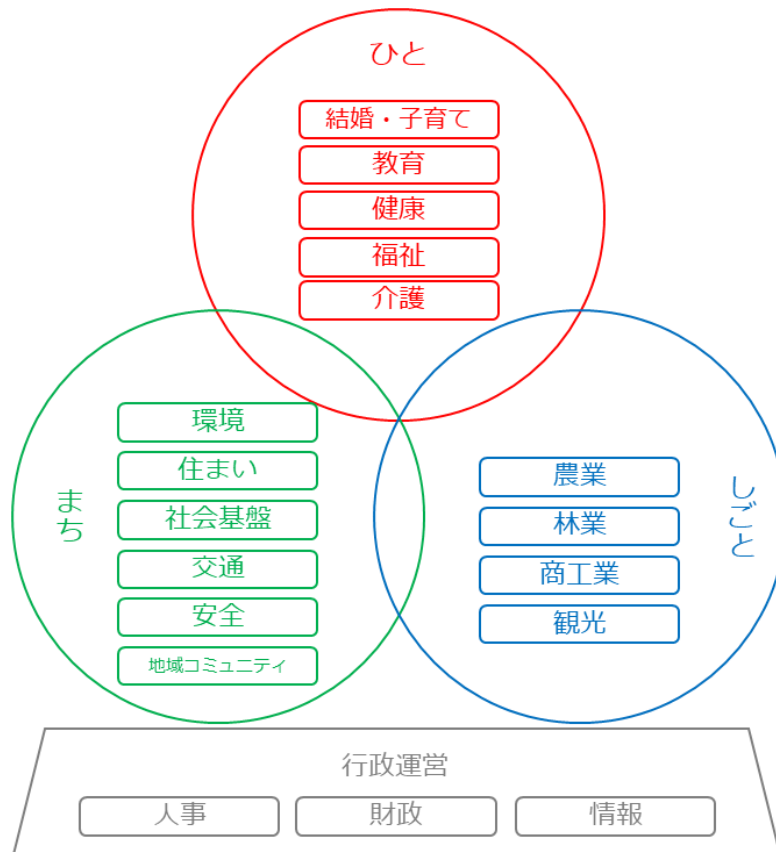
- ・ 本町の町づくりの基本方針は「町民憲章」で定めています。
- ・ そのうえで、現状や今後の見通しに基づき、中期的な視点に立って定める町づくりの方向性がこの「総合計画」です。
- ・ 総合計画は町の全体についての計画ですので、原則として町づくりの方向性を定めます。この方向性に基づく詳しい事業内容は、各下位計画や毎年度の予算編成において定めることとします。
- ・ なお、この計画は法律等に基づかない任意のものですが、「まち・ひと・しごと創生法」に基づいて国から策定を要請されている「地方版総合戦略」を含むものとして策定します。

第2節 計画の期間

- ・ 本計画の期間は令和2年度(2020年度)から令和6年度(2024年度)の5年間とします。

第3節 計画の構成

- ・ 本計画では、各分野を次のとおり分類します。



分野	主な内容
<div style="border: 1px solid red; padding: 5px; display: inline-block; writing-mode: vertical-rl;">ひと</div> <div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 5px; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid red; padding: 2px 5px; display: inline-block;">結婚・子育て</div> <div style="border: 1px solid red; padding: 2px 5px; display: inline-block;">教育</div> <div style="border: 1px solid red; padding: 2px 5px; display: inline-block;">健康</div> <div style="border: 1px solid red; padding: 2px 5px; display: inline-block;">福祉</div> <div style="border: 1px solid red; padding: 2px 5px; display: inline-block;">介護</div> </div>	<p>結婚、妊娠、出産、子育て</p> <p>学校教育、生涯教育</p> <p>健康増進、医療環境</p> <p>地域福祉、障がい者福祉、老人福祉</p> <p>介護保険</p>
<div style="border: 1px solid green; padding: 5px; display: inline-block; writing-mode: vertical-rl;">まち</div> <div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 5px; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid green; padding: 2px 5px; display: inline-block;">環境</div> <div style="border: 1px solid green; padding: 2px 5px; display: inline-block;">住まい</div> <div style="border: 1px solid green; padding: 2px 5px; display: inline-block;">社会基盤</div> <div style="border: 1px solid green; padding: 2px 5px; display: inline-block;">交通</div> <div style="border: 1px solid green; padding: 2px 5px; display: inline-block;">安全</div> <div style="border: 1px solid green; padding: 2px 5px; display: inline-block;">地域コミュニティ</div> </div>	<p>自然環境、こざっぱり</p> <p>住環境、町営住宅、空き家活用</p> <p>上下水道、情報通信、道路</p> <p>公共交通、移動支援</p> <p>消防、防災、交通安全、防犯、消費生活</p> <p>住民活動、住民交流</p>
<div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; display: inline-block; writing-mode: vertical-rl;">びん</div> <div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 5px; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid blue; padding: 2px 5px; display: inline-block;">農業</div> <div style="border: 1px solid blue; padding: 2px 5px; display: inline-block;">林業</div> <div style="border: 1px solid blue; padding: 2px 5px; display: inline-block;">商工業</div> <div style="border: 1px solid blue; padding: 2px 5px; display: inline-block;">観光</div> </div>	<p>農業振興</p> <p>林業振興</p> <p>商工業振興</p> <p>観光振興</p>
<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; display: inline-block; writing-mode: vertical-rl;">行政運営</div> <div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 5px; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px 5px; display: inline-block;">人事</div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px 5px; display: inline-block;">財政</div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px 5px; display: inline-block;">情報</div> </div>	<p>定員管理、職員研修、働き方改革</p> <p>財政、税、財産管理</p> <p>電算、広聴広報</p>

第2章 住田町の現状と見通し

第1節 これまでの変化

1. 前計画の振り返り

- 本町は、平成27年度に「住田町人口ビジョン・総合戦略・総合計画」（以下「前計画」）を策定し、目標人口、基本目標等を掲げ取組みを推進してきました。

[目標人口] 平成52年(2040年) 4,000人

[将来像] 里山で暮らし続けるための基礎的な生活機能が保証され、住みやすく、ずっと住みたいと思える「住みたい町：住田」

- 人口は目標を下回るペースで減少を続けています。
- ひと分野では、婚姻数や合計特殊出生率はほぼ目標通りに推移しているものの、出生数や社会増減、移住者数は目標を達成できておらず、児童数1学年40人の目標は達成できていません。
- まち分野では、各KPIはほぼ達成される状況にあるものの、住民満足度は大幅に目標を下回っています。
- しごと分野では、各KPIはほぼ達成されており、町民所得もほぼ目標並みに推移しています。
- 前計画における各目標の進捗状況は下表の通りです。

※ 目標人口

目標指標		H27	H28	H29	H30	R1
人口(人)	目標値	5,743	5,656	5,569	5,482	5,395
	実績	5,720	5,647	5,481	5,331	-
	達成率	99.6%	99.8%	98.4%	97.2%	-

①【ひと：人口対策】子どもの数は1学年40人を確保 (複式学級を回避し小学校2校を維持するため、1校1学年20人×2校)

目標指標		H27	H28	H29	H30	R1
児童数(1学年)(人)	目標値	28	29	31	34	40
	実績	27	17	20	25	-
	達成率	96.4%	58.6%	64.5%	73.5%	-

重要業績評価指標(KPI)

目標指標		H27	H28	H29	H30	R1
婚姻数(組)	目標値	14	15	16	18	20
	実績	16	19	15	-	-
	達成率	114.3%	126.7%	93.8%	-	-

目標指標		H27	H28	H29	H30	R1
出生数（人）	目標値	28	28	29	30	31
	実績	24	17	23	24	—
	達成率	85.7%	60.7%	79.3%	—	—
合計特殊出生率	目標値	1.20	1.24	1.30	1.38	1.50
	実績	1.26	1.15	1.34	—	—
	達成率	105.0%	92.7%	103.1%	—	—
社会増減（人）	目標値	-30	-26	-20	-12	0
	実績	-48	9	-74	-67	—
	達成率 (※1)	40.0%	234.6%	-170.0%	-358.3%	—
移住者数（累計）	目標値	9組 27人	18組 54人	27組 81人	36組 108人	45組 135人
	実績	7組 15人	8組 17人	8組 17人	9組 18人	—
	達成率 (※2)	55.6%	31.5%	21.0%	16.7%	—

※1 達成率 = 1 - (目標値 - 実績) / (目標値) ※2 達成率は移住者の人数で算出

②【まち：生活環境対策】生活圏内で必要な買い物等の生活・交通・医療の利便性が図られる環境整備

目標指標		H27	H28	H29	H30	R1
住民満足度（買物）	目標値	6.7%	12.0%	22.0%	35.0%	50.0%
	実績	6.7%	9.8%	11.5%	16.7%	—
	達成率	—	81.7%	52.3%	47.7%	—
住民満足度（道路交通）	目標値	15.0%	20.0%	25.0%	35.0%	50.0%
	実績	15.0%	19.4%	20.5%	16.9%	—
	達成率	—	97.0%	82.0%	48.3%	—
住民満足度（医療）	目標値	7.2%	12.0%	22.0%	35.0%	50.0%
	実績	7.2%	10.9%	9.0%	8.5%	—
	達成率	—	90.8%	40.9%	24.3%	—

重要業績評価指標（KPI）

目標指標		H27	H28	H29	H30	R1
商店数	目標値	56	54	52	51	50
	実績	56	56	55	54	—
	達成率	—	103.7%	105.8%	105.9%	—
移動販売・買物代行件数（件）	目標値	7	7	7	8	10
	実績	7	7	7	7	—
	達成率	—	100.0%	100.0%	87.5%	—

目標指標		H27	H28	H29	H30	R1
小売店売上高（百万円）	目標値	3,080	3,100	3,160	3,240	3,355
	実績	—	3,069	—	—	—
	達成率	—	99.0%	—	—	—
小さな拠点での地域活動	目標値	0	0	3	4	5
	実績	0	0	4	5	—
	達成率	—	—	133.3%	125.0%	—

③【しごと：所得対策】町内にいながらできる“しごと”があり、その仕事で生活できる収入を確保

目標指標		H27	H28	H29	H30	R1
町民所得（千円）	目標値	2,331	2,351	2,391	2,457	2,553
	実績	2,399	2,392	2,470	2,441	—
	達成率	102.9%	101.7%	103.3%	99.3%	—

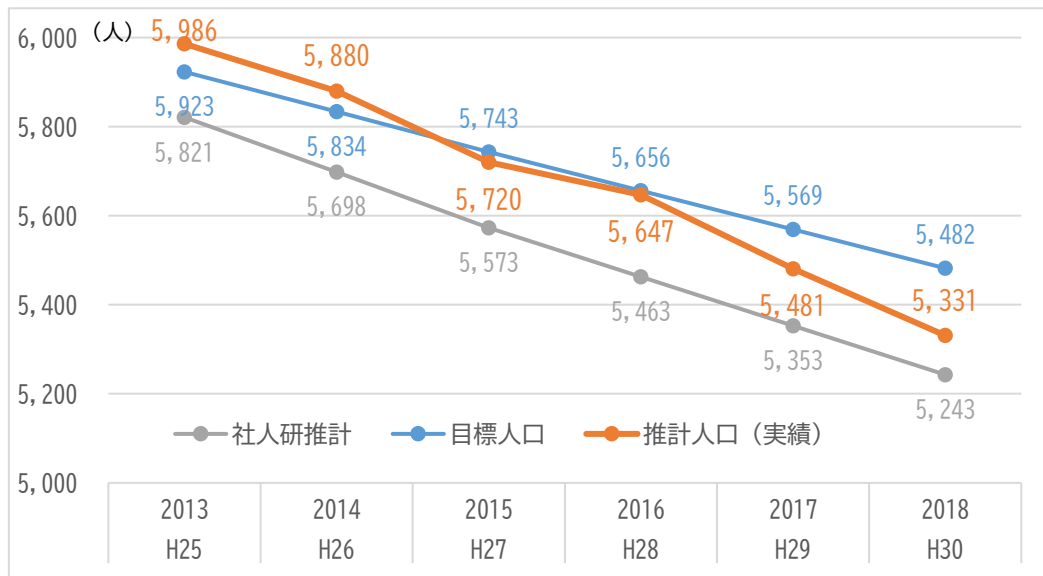
重要業績評価指標（KPI）

目標指標		H27	H28	H29	H30	R1
木材木製品業売上高（億円）	目標値	77	78	80	82	84
	実績	76	84	85	80	—
	達成率	98.7%	107.7%	106.3%	97.6%	—
食品製造業売上高（百万円）	目標値	6,000	6,050	6,150	6,300	6,558
	実績	—	8,041	—	—	—
	達成率	—	132.9%	—	—	—
農業産出額（百万円）	目標値	4,878	4,927	5,025	5,176	5,313
	実績	4,980	5,100	5,580	—	—
	達成率	—	99.0%	—	—	—
商工業売上高（百万円）	目標値	4,950	5,000	5,100	5,250	5,407
	実績	—	5,785	—	—	—
	達成率	—	115.7%	—	—	—
就業支援による新たな雇用（累計）（人）	目標値	5	10	15	20	25
	実績	4	6	7	7	—
	達成率	—	60.0%	46.7%	35.0%	—
交流人口（人）	目標値	97,183	100,000	108,000	125,000	150,000
	実績	95,212	107,091	108,836	108,773	—
	達成率	98.0%	107.1%	100.8%	87.0%	—

第2節 今後の展望（人口ビジョン）

1. 前計画における人口ビジョン

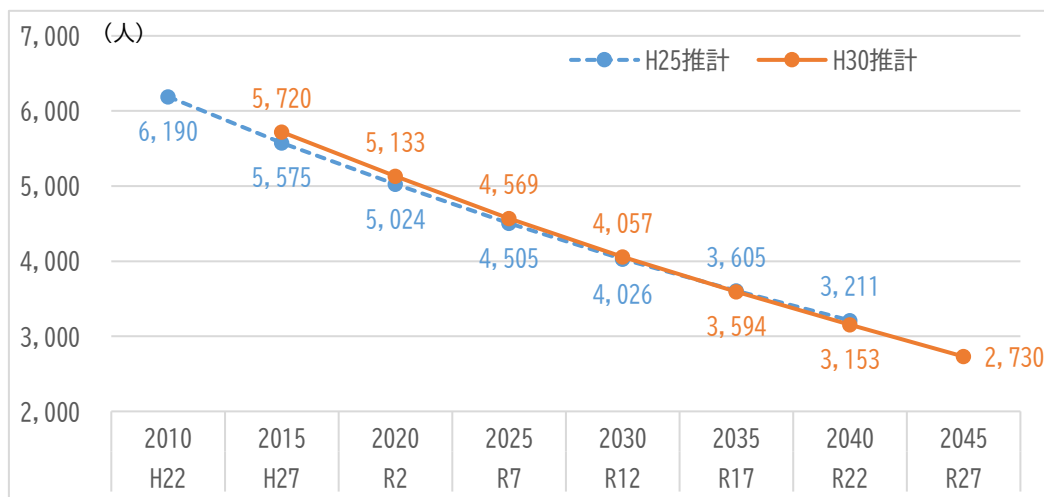
- ・ 前計画では、国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」）が平成25年（2013年）3月に示した、2040年に3,211人まで減少する人口を、4,000人に維持することを目標人口に掲げ、総合戦略や総合計画により各種施策を実施してきました。
- ・ 前計画策定後の人口の推移は下図の通りで、社人研推計の人口は上回っているものの、目標人口は達成することができませんでした。



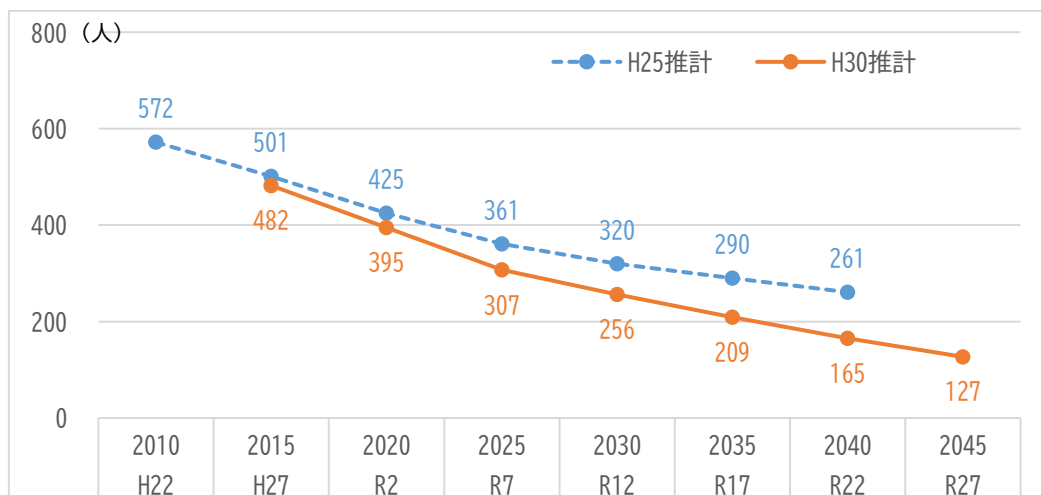
注：「推計人口（実績）」は、岩手県人口移動報告年報における推計人口

2. 新しい社人研推計の分析

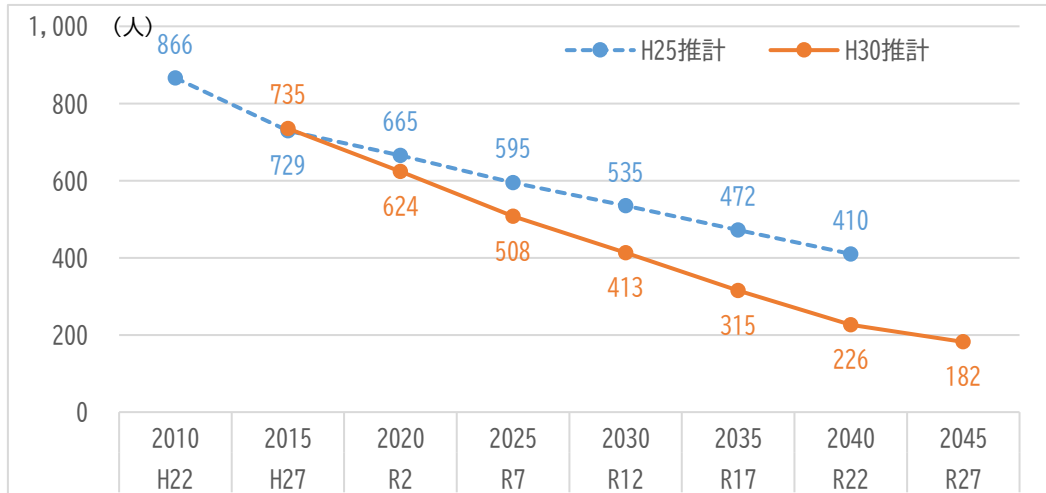
- ・ 前計画策定時に参照した社人研の平成 25 年 3 月推計（以下「H25 推計」）と、平成 30 年 3 月の推計（以下「H30 推計」）とを比較し、前計画策定時からこれまでの人口動態に係る課題を以下の通り分析しました。
- ・ 総人口は下図の通りで、令和 12 年(2030 年)までは H30 推計が H25 推計を上回るものの、令和 17 年(2035 年)からは H30 推計が下回り、目標年である令和 22 年(2040 年)は 3,153 人と、H25 推計を 58 人下回りました。



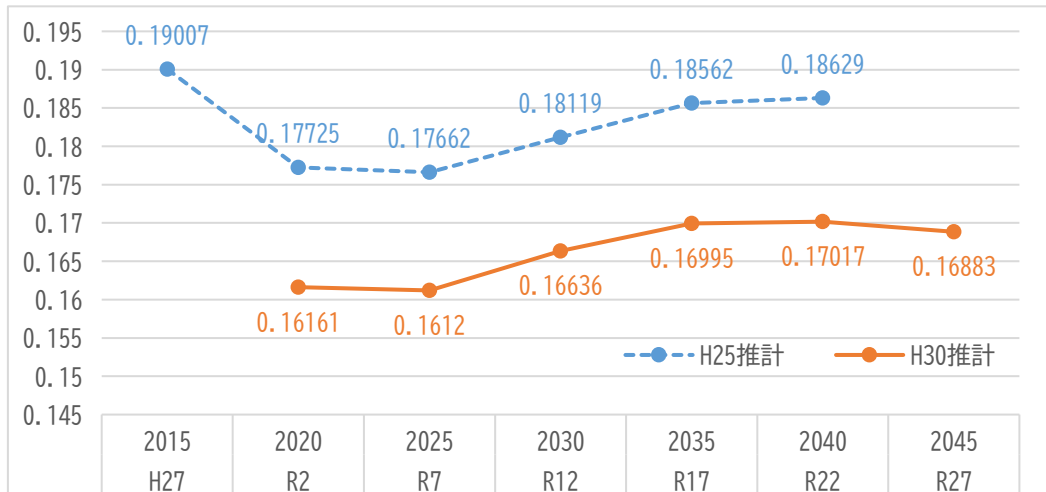
- ・ 年少人口は、平成 27 年(2015 年)国勢調査の実績から H25 推計を下回っており、減少の度合いも加速しています。



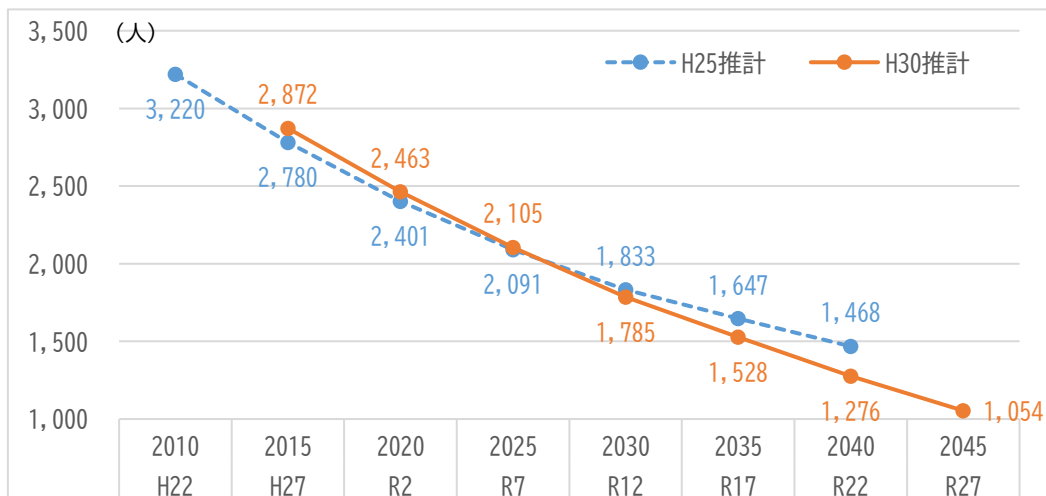
- ・ 上記の減少加速の要因の1つは、15～49歳女性の人口が、H25推計に比べH30推計で減少がより加速したためです。



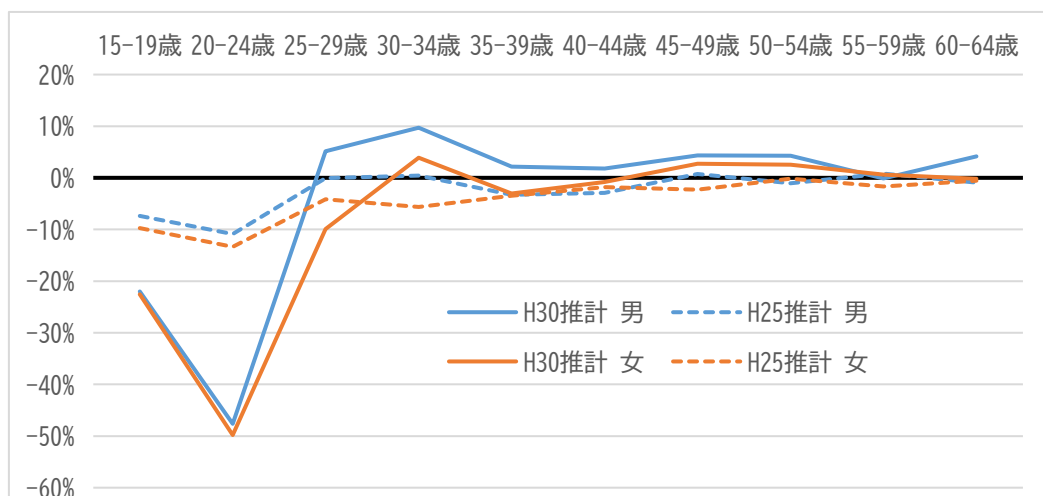
- ・ 同じく要因の2つ目は、子ども女性比（出生率）が低下したためです。



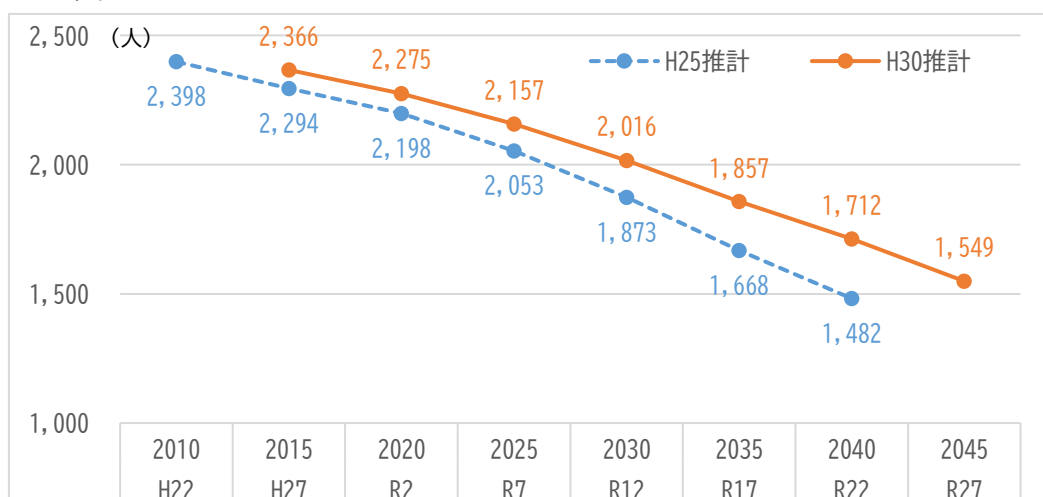
- ・ 生産年齢人口は、令和7年(2025年)まではH25推計を上回っていますが、令和12年(2030年)から下回り、減少は加速しています。



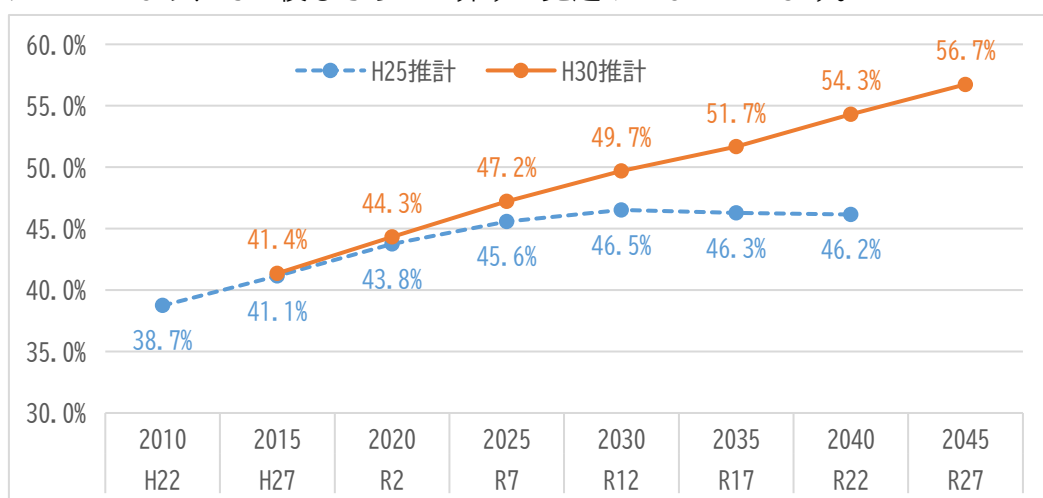
- ・ 社会増減を表す純移動率を年齢階級別にみると、20代前半の減少率が、H25に比べ大幅に低下しており、これが上記の要因と考えられます。



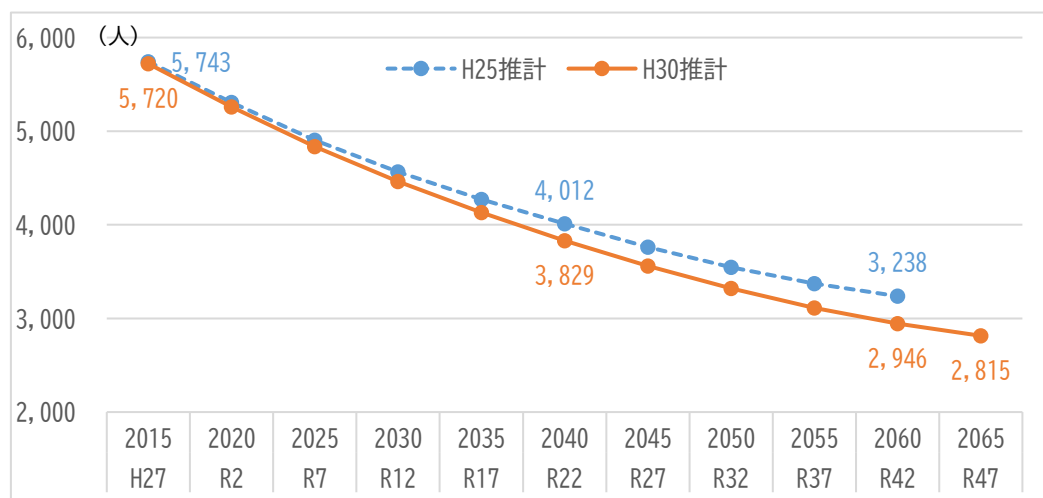
- ・ 老年人口は、一貫して H25 推計を上回っており、減少の度合いも緩やかになっています。



- ・ その結果、高齢化率は H25 推計に比べさらに上昇し、令和 12 年(2030 年)にはほぼ 50% となり、その後もさらに上昇する見込みとなっています。



- 前計画の目標人口を定めるにあたって用いた条件（①出生率の上昇 ②社会増減ゼロ）を H30 推計に当てはめた場合のシミュレーションでは、目標年である令和 22 年(2040 年)の人口は、前計画時に比べ 183 人下回ります。



3. 本計画の人口ビジョン

- 以上のように、新たな社人研推計によると、出生率の上昇と社会増減ゼロを達成したとしても前計画の目標である「2040 年に 4,000 人」には約 180 人不足します。
- 前計画で掲げた目標人口は、人口減少はやむを得ないが、今後も安心して暮らせるための必要な手立てを打ち、最小限の減少に食い止めようとする、町民に向けての一種のメッセージであり、人口減少社会に立ち向かっていく町のスローガンとしての性格をもつものでした。
- ただし、人口はそれまでの町づくりによってどれだけの人にこの町が選ばれているかという、町づくりの成果のバロメーターであるとも言えます。
- よって、町民に向けてのメッセージ、町のスローガンと、本計画の成果指標としての目標人口として、これまで掲げてきた「2040 年に 4,000 人」の目標を継承することとします。
- そのために必要な条件は、出生率の上昇と社会増減ゼロに加え、20 年間でさらに約 180 人、1 年当たり 9 人の人口増が必要です。
- また、人口構成の課題から、次の点を重点的に解消しなければなりません。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ① 20 代前半の人口の増加 ② 15～49 歳女性の人口の増加 |
|---|

4. 人口目標達成に必要な条件

.

第3節 住田町ってこんな町

1. 住田町の「強み」「弱み」「理想の町の姿」

- ・ 今後の町づくりの方向性を検討するにあたり、本町の特徴を「強み」「弱み」として洗い出し、さらに目指すべき町の姿の参考として「理想の町の姿」を取りまとめました。
- ・ 方法は、町内5地区で開催した住民懇談会と、町職員を対象に開催した総合計画策定に係るワークショップにおける「付せんアンケート」によって行いました。
- ・ 寄せられた声を分類した結果は次ページ以降の図1~3の通りで、要点を以下の通りまとめました。
 - ・ 自然環境は町の強みとして最も多く挙げられ、理想の町の姿では現在の姿を残したいという声が多かった。
 - ・ 町並みや自然環境といった町の風景が強みとして挙げられ、理想の町の姿でも、今のままの姿を残してほしいという声が寄せられた。
 - ・ 地域コミュニティは、特に住民同士の繋がりや見守り、住民の人柄の良さなどが強みとして挙げられている一方、行事の多さや役員等のなり手不足などが弱みとして挙げられ、理想の町の姿では人と人との繋がりを継続する声が多く寄せられた。
 - ・ 子育てや教育環境については、前計画における行政支援の充実によって、町の強みとしてとらえられており、理想の町の姿としても子育てがしやすく子供たちが健やかに育つ環境が望まれている。
ただし、少子化による子供同士の交流の少なさや、学びの場所や機会の少なさ、関連して、遊ぶ場所、娯楽の少なさが弱みとして挙げられている。
 - ・ 医療については、医療機関の少なさ、遠さ、また住民の健康に対する意識の低さが町の弱みとして多く挙げられており、理想の町の姿でもこれらの改善を望む声が挙がっている。
 - ・ 町の位置が、沿岸や内陸の都市へのアクセスがしやすい場所にあるという点が強みとして挙げられた一方で、交通機関の不便さが弱みとして挙げられている。
関連して、集落が点在していることも移動時間がかかるなどの理由から弱みとして挙げられた。
 - ・ 住まいについては、町内に不動産業者がないことによる家を探す大変さや、生涯の段階に応じた住み替えがしにくいといったことが弱みとして挙げられた。
 - ・ 日常の買い物ができる商業施設の少なさが弱みとして挙げられ、理想の町の姿でもその改善を望む声が寄せられた。
 - ・ しごと分野では、畜産を主とした食産業が町の良さとして認知されている。一方で、労働者側からすると若い世代の働く場所の少なさ、経営者側からすると人手不足といった、相反する内容が弱みとして挙げられている。

- ・ 自然環境や自然、食産業といった強みを活かす手段として、観光による交流人口の拡大に期待する声が挙がった。
- ・ すべてに共通する課題である人口減少や少子化が弱みとして挙げられた。理想の町の姿では、少ない人口でも維持できる町よりも、人口が増える町を望む声が多かった。
- ・ エネルギーや食料といった面での自立や町内での完結を望む声が寄せられた。

町の強み

※ゴシック体が住民懇談会、明朝体が職員ワークショップでの内容

ひと

子育て・教育

行政支援

- 子育て支援。医療費、教育が充実している
- 保育料や医療費の助成などで子育て支援が充実
- 子育て支援が充実している（保育料、医療費）
- 子育て環境（特に財政面）が優れている
- 子育てする上での経済的支援が手厚い
- 子育て支援が充実

保育料

- 3歳以上児保育料無料
- 保育料の補助の充実

住田高校

- 住田高校の通学費助成
- 住田高校の給食費助成

医療費

- 医療費無料（0～18歳）
- 高校卒業まで医療費無料

教育環境

- 教育が充実している（森の保育園）
- 小規模ならではの保育、教育。保小中高が一緒
- 少人数のため先生の目が行き届く
- 小中学校の支援員の充実

地域環境

- 子供が少ないけどつながりが強い気がする
- 地域の目の中で子育てができる
- 近場に自然が多く、子供達に様々な自然体験をさせてあげられる
- 子供達が安心して外で遊べる環境
- 学年をこえて遊んでいる

人柄

- 町民がやさしい
- 町の人が優しい
- 比較的好い人が多い。田舎ならではの人情
- 何か変えよう、良くしようと思う人がいる。やってみよう
- 人みりよのあの人多い？
- 高齢者が生涯現役
- 名人たち

福祉

- 福祉サービスひとりひとりに手厚い

地域コミュニティ

つながり・団結

- 住民同士がお互いを良く知っている
- 自分の住んでいる地区の人の顔がわかる
- 顔がみえる、分かる
- 住民同士の顔の見える関係
- 住民どうしが顔見知り
- 人と人との関わりがある。近所付き合いとき
- 地域の行事が多くつながりが強い
- 住民同士のつながりが強い
- 団結力がある（消防、公民館）
- 地域ごとの団結力
- 人口が少ないので近所の人と仲が良い
- お祭りがある。皆積極的員参加する。地域住民のつながりがある
- 地域活動やカフェなど住民主体の取り組みに積極的
- 見守り体制でできる
- 住民同士の見守り
- 「共助」の力が強い。地域を知っている住民が多い
- 情報伝達が容易

まち

自然

- めぐまれた自然環境の資源の維持を
- 自然
- 自然
- 自然
- 自然環境
- 自然環境が良い
- 自然が豊か
- 自然が豊か
- 自然ゆたか
- 自然が豊か
- 空気がきれいで自然豊か
- 自然豊か
- 自然がいっぱい
- 自然がいっぱい
- 自然が多いこと

川と緑

- 緑と川の清さは自慢できまじ私誇りです
- 自然の恵み山菜、川魚、美しい川、季節の彩り
- 自然が豊か（川がきれい、森がある）
- 自然の風景（山・川）

森林

- 森林資源が豊富
- 豊富な森林資源
- 森林のイメージが強い
- 山の水資源
- 豊富な資源（木、食料、・・・）

川

- 種山
- 私は「種山ヶ原」が好きです
- 自然豊か魅力五葉山

川

- 川
- 川の景観
- 自然（清流）
- 魚の手づかみ
- 大自然が多い（魚の手づかみができる）

星

- 星がきれいに見える
- 星

気候

- 気候がおだやか。厚くなく寒くない。雪が少ない
- 夏すずしい
- 気温が高くない。過ごしやすい

風景

- 景色が好き
- 美しい景観
- まちの風景（山、川、空、等々）
- 風景
- ロケーション。なんか一息つける
- 風土が良い
- 町並み
- 町並みがステキ

しごと

食産業

- 食
- 畜産（お肉フェス等あったら良い）
- 食べ物が美味しい
- 農業の産出額多

商業施設

- 商店が充実してきた（バイパス沿い）
- ケラッセ。だんだん認知されてきた
- 木製品
- 木の名刺入れ

大きさ

- 小さい町だからできること
- とにかくコンパクト

土地

- 土木関係等の災害被害が少ない。発生件数も少ない
- 土地が管内では安い

位置

- 位置
- 大船渡、遠野、釜石、奥州、陸前高田へのアクセスが良い
- 自家用車があれば町外への移動がしやすい
- 車を持っていない他地域への交通アクセス便利

交通

- 交通の便（他よりはいいのでは）

社会基盤

- 木造庁舎
- 役場庁舎
- 球場 大学とかもやってほしい
- りっぱな球場がある
- 住田TVという情報発信ツール
- 町内のインターネット環境が整っている

文化・芸能

- もさばすごい住田の歴史文化（産金、鉄、火縄）
- 郷土芸能 剣舞、鹿踊り、権現様、多い

イベント

- ケセンロックが開催されている

行政運営・その他

- 役場職員の顔がわかる近い距離感
- ゴミの分別がほとんどない為うらやましいらしい
- まだ転入したばかりでよくわからない
- 何も無いところ
- 費用への助成が厚い
- 都会人に秘境をほめられた

町の弱み

※ゴシック体が住民懇談会、明朝体が職員ワークショップでの内容

ひと

医療

医療資源

- 医療 頼れる医療機関 病院が近かったら 医療
- 病院が少ない 病院が近くにない 医療機関が少ない 医療機関が乏しい 病院が少ない 病院（小児科）が無い
- 医療機関が少ない。入院病床がない 医療資源が乏しい 医療機関が少ない 医療資源が不足している 緊急時の医療環境が整っていない 町内の医療機関の選択肢が少ない

意識

- 健康に対する意識の低さ 生活習慣に気をつけてもらいたい
- 医・福・保において、公的なサービス外で補えるものが少ない

教育

学校

- 学校が遠い 児童数、学校数が少ない為小中学生同士の交流が少ない 小規模校が多いため高校でのギャップを受けてしまう

地域

- 学びの場所、機会が少ない 子供達にとって経験や知る場が少ない 子供が少ない一休日に近所の子供達が集まって遊ばない。いろんな人と関われない 学びの姿勢、文化 世界視野の狭さ 図書館がない、調べものできない、欲しい情報が手に入りにくい。勉強スペースが限られる

まち

道路

道路整備

- 道路が危険 ウォーキングしやすいように歩道の整備（夜曜日、デコゴコ）
- 道路が狭いところがある

交通網

- 中央へのつながりを（交通網）もっと（もう少し）短縮
- 産業・生活道路である県道167号線の早期改良整備

公共交通

- 交通 交通が不便 交通機関がまひとつ 山にかこまれていて交通の便が悪い 車の相乗り
- 車がなければ生活が不便 車がないと色々不便 自家用車がないと生活できない。バス、鉄道が使づらい 特に高齢者の移動が困難 バスが不便。アクセスが悪い 家からお店、病院まで遠くて不便

買い物

- 商店が少ない。地域差大 サービス、施設が少ない（店、タクシー） 買い物の選択肢 買い物する場所が少ない
- 飲食店が少ない

娯楽・交流・遊びの場

- 娯楽の少なさ（子供の）屋内 遊ぶ場所が少ない 遊びの場 自然が多いのにレジャー施設が少ない 飲食店が少ない。気軽に交流できる場所が限られている（子育て） カフェなど人と待合せたりプラプラする場所がない

しごと

雇用の場

- 働いている人が少なすぎる 働く場が少ない 働き先が少ない
- 若者の雇用の場が少ない 若者が働きたいと思える職場が少ない 安定して働ける場所（会社）がない
- 仕事がない

人手不足

- 農業、林業において担い手不足が生じている
- 保育士確保

その他

- シャッター通り次々と閉店 所得が低く町内の経済活動が足りない 時々異臭がする（プロイラーなど） 獣害（農作物、交通事故）

住まい

- 生活の変化に応じて住替える勇気と経済力、将来展望 自分の将来の居場所が想像できない（土地や家、老後の暮らしなど） 不動産屋がなくて家を探すのが大変

集落の分散、偏り

- 沢々に点在する家々。集まる、配布する時エネルギーがいる 集落が点在しすぎ（移動時間） 広範囲に広がりがち 世田米にしているが集中しすぎ

地域コミュニティ

行事

- 行事が多い 行事が多い 活動、行事が多くないか 忙しい。自前でやらなきゃいけないものが多い

つながり・支え合い

- 人の交流 町全体が高齢化しており周囲を支えきれなくなってきた

チャレンジ環境

- 気軽に試せない。周りの目 何かやってみても下手の過去の失敗を恐れる。挑戦のわりに形になっているものが少ない

人材不足

- 問題に対し動く人がいない（リーダー） 負担の偏り。疲弊 役員 人が少ないのに組織がありすぎて住民の負担増（地域の役員とか）

行政依存

- 困り感ばかり行政任せ、共助やボラに至らず 何でも役場

その他

- もう少し地域の困り事について話し合い、本来の意味を考えてみて すぐバレる（色々） もう少し思いやりがあっても（町民間）

その他

- なにもないところ 車のナビでTVが見れない 出かけ先が町内にはばばない。多くは町外に外出 片付けがへた 国道が3本も通っているのに通過されるだけ

人口減少・少子高齢化

- 住民が少なく今後も少なくなっていくのを感じる 何をしても人が少ない もう少し人が多かったら 若い世代が離れる 子どもが少ない 若者が少ない 高齢化率高い 独居が増えている

行政運営・その他

情報発信

- 情報発信が下手 プレゼンテーションが上手じゃない（素材はよいのに） 老人の町なので情報発信が弱い（SNSなど） 住田の発信が出来ればもっと知ってもらえると思う 職員が少なく一人ひとりの負担が大きい

理想の町の姿

※ゴシック体が住民懇談会、明朝体が職員ワークショップでの内容

ひと

医療	医療資源		意識	
	医療機関がもう少しあれば(特に子供関係)	病院が町内にある	かかりつけ医がいるまち	30代40代の方の健康診断の意識を。成人病予防のより施策を
子育て	子供がいっぱいいる事	子育てが楽しく安心出来る町を目指す	子供達が元気であいさつしてくれる!!変わらないでほしい	子育てしやすい
	子供ファーストの町	引き続き待機児童0		子育て世代の増加(子供の増)
教育	学校に行けず悩んでいる子ども達の学校をつくる	大学を設置(通信制)	学び、生涯学習	自然と触れ合える学習環境を残す
	高齢者	老年人口の人々が元気な住田町	高齢者が活躍する町	

まち

自然	昔ながらの変わらない自然が残るといいなあ	きれいな川と山の水	花がいっぱいの町。菜の花、なでしこ、あじさい、ひまわり	「森の幼稚園」「彩事業」のような自然を生かした住田独自の取り組み
	自然が豊かな町	きれいな自然を残す	自然を保全して	
風景	景色	自分の故郷。風景は変わらなくていい	自然の風景は変わらず残してほしい	
	助けあいの精神は変わらないでほしい	住民同士のつながりが強い家族みたいな町	集落内のつながりをそのままに	まとまりのある集落であって欲しい
コミュニティ	地域住民仲がいい	若い世代の交流の場が増える事	人が集まれる、遊べる場所がほしい	地域住民ひとりひとりが活躍できる町
	商業施設増えといいな	目玉となるような商業施設があるといい	住みやすい町・HP・買い物	スーパー、移動販売してくれる企業の誘致
住まい	20歳未満の子供が3人以上いる家庭は町営住宅無料にPR	高齢者が一人でも住める長屋方式の町営住宅があったらいいな	高齢者を集約できる家ほしい	
	災害に強い町	災害に強いまち		
コンパクト				コンパクトタウン。自分で自由に活動できなくなったら便利な所に住みたい

しごと

雇用	仕事がある町	若者	町内に勤める状況が限定されていて若い世代が定着しない	若者が戻って来れる産業
		高齢者	高齢化を活かした取り組み(葉っぱビジネス)	
観光	他地域からの人が訪れるための施設とそれを受入れられる宿泊施設	バイパス沿いに観光スポットがあれば	滝観洞に温泉があればよい	滝観洞で・きもだめし・ハロウィン

自立・完結するまち

「外部」に依存せず成立するまち(エネルギー、食べ物、移住者)	エネルギー、食の循環が町内で完結している	生まれてから亡くなるまで町の中で完結できる
--------------------------------	----------------------	-----------------------

少ない人口で持続するまち

少ない人口でも幸せに暮らせる町
身の丈に合った社会になること。持続可能
人口規模に合った町

人口が増えるまち

住田町人口減少でなくなるかも	町外からの転入者の積極的な受入策の導入(特に動き世代)	
町を出て行った人達が「戻って来たい」と思える町	人がたくさんいる町(維持でも良い)	人が増えてほしい
若い人が増える	町外からも人が集まる	

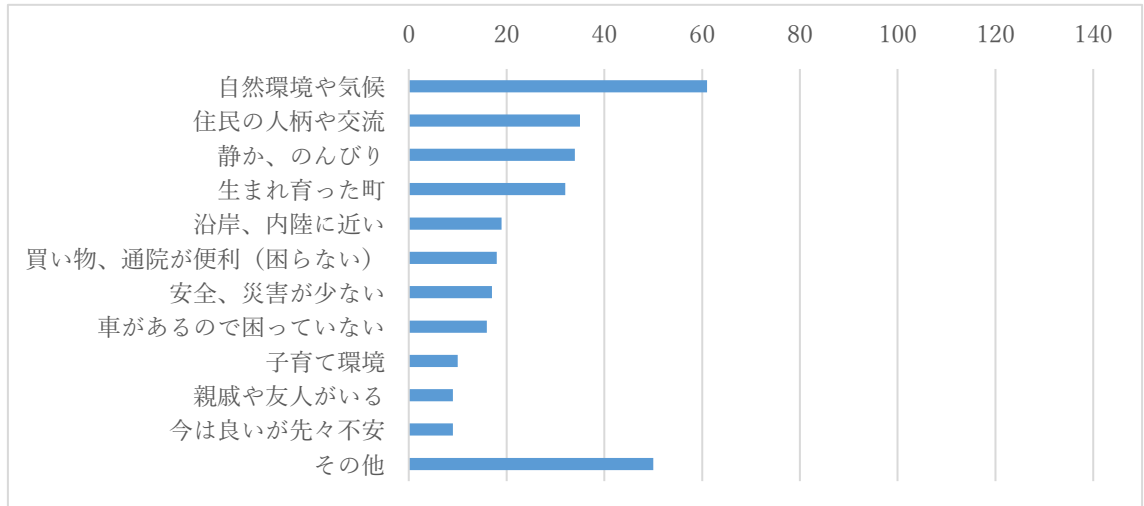
その他

豊かな町	活気ある町	お金持ちの優しい町
安心して暮らせる	自分らしく生活できる	やすらかに死ねる

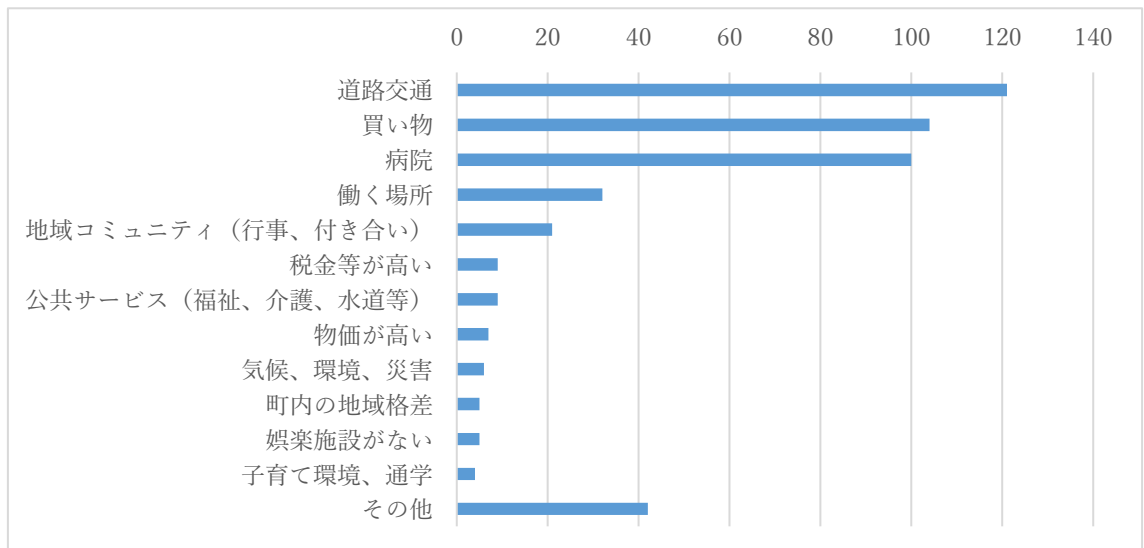
住田を中心に釜石、遠野、大船渡、高田が廻る様になれば!	閉じる開発も必要?	先頭の人がもう少し協力できたら	他人任せではなく、自分のこととして捉える	誇りを持てるように	いるんな人がいるんなことをやってお互いに認め合える尊重し合える心の余裕	3世代が一緒に生活できる町
-----------------------------	-----------	-----------------	----------------------	-----------	-------------------------------------	---------------

2. 住田町の「住みやすさ」「住みにくさ」

- ・ 前計画の進ちよく状況を把握するためのアンケート調査において、住田町の住みやすさ、住みにくさの理由に関する設問への回答の結果は下の2つのグラフの通りでした。(平成29～30年度の2年分)
- ・ 「住みやすさ」の要因としては、「自然環境や気候」「住民の人柄や交流」「静か、のんびりしている」という点が多く挙げられました。



- ・ 「住みにくさ」の要因としては、「道路交通」「買い物」「病院」が特に多く、次いで「働く場所」「地域コミュニティ」が挙げられました。



3. データから見る住田町

- ・ ここでは、客観的な指標であるデータから町の姿を分析します。
(詳しくは資料編をご覧ください)

(1) 人口

- ・ 住田町に合併した昭和 30 年(1955 年)の 13,121 人をピークに、人口は一貫して減少しています。
- ・ 年少人口 (0~14 歳)、生産年齢人口 (15~64 歳) は年々減少し、老年人口 (65 歳以上) は平成 17 年(2015 年)まで増加し以後減少しています。
- ・ 年少人口、生産年齢人口の割合は年々減少し、老年人口の割合 (高齢化率) は増加傾向にあります。
- ・ 自然動態 (出生、死亡) では、死亡数は昭和 20 年代から年間 100 人前後で大きな変動はないが、出生数は昭和 20 年代に 400 人前後だったものが徐々に減少し、昭和 50 年代には 100 人前後、最近では 20 人前後となっています。
- ・ 社会動態 (転入、転出) は、出生数の減少により転出者数も減少しているものの、転入者数も同様に減少傾向にあります。昭和 50 年代に 100 人前後の社会減だったものが、近年では 50 人前後の社会減となっていますが、依然として転出超過にあります。
- ・ 年齢階級別にみると、転入転出は 20 代から 30 代が大半を占め、平成 26 年(2014 年)から平成 30 年(2018 年)の 5 年間では、20 代前半の社会減が最も大きくなっています。

区分		転入	転出	社会増減
20~24 歳	男	63	83	-20
	女	45	65	-20
	計	108	148	-40
25~29 歳	男	49	48	+1
	女	49	49	0
	計	98	97	+1
30~34 歳	男	50	41	+9
	女	31	39	-8
	計	81	80	+1
35~39 歳	男	18	23	-5
	女	28	31	-3
	計	46	54	-8

- ・ 転入元、転出先の地域別でみると、平成 24 年(2012 年)から平成 30 年(2018 年)までの 7 年間で、岩手県内に対しては 219 人の社会減、このうち近隣の市 (大船渡市、陸前高田市、釜石市、遠野市、奥州市) に対しては 123 人、盛岡市に対しては 56 人の社会減となっています。また、首都圏に対しては 23 人の社会減となっています。

(2) 世帯

- ・ 世帯数は昭和 55 年(1980 年)の 2,294 世帯をピークに減少傾向にあります。直近の平成 27 年(2015 年)は増加に転じています。
- ・ 世帯の人員別にみると、4 人以上の世帯が減少し、3 人以下の世帯が増加しています。
- ・ 家族類型別にみると、夫婦・子供・両親(ひとり親)の、いわゆる三世帯家族の割合が減少し、単独世帯の割合が増加しています。
- ・ 単独世帯の配偶関係をみると、男性は 50~60 代の未婚者が多く、女性は 60 代以上の死別・離別が多くなっています。
- ・ 18 歳未満の世帯員のいる世帯は、昭和 55 年(1980 年)に 55.1%だったものが、平成 27 年(2015 年)には 17.0%まで低下する一方、65 歳以上の世帯員のいる世帯は、同じく 45.2%だったものが、71.7%に上昇しています。

(3) 外国人

- ・ 外国人の数は近年急激に増加しており、国勢調査によると平成 27 年(2015 年)には 88 人で、このうち中国国籍の方が約 8 割を占めています。
- ・ 全人口に占める外国人の割合は平成 31 年(2019 年)には 1.7%となっていますが、年齢階級別にみると女性の 20~24 歳では 31.2%が外国人です。
- ・ 平成 30 年(2018 年)の社会増減では、20~24 歳において日本人が 14 人の社会減となっているのに対し、外国人が 18 人の社会増となり、全体で 4 人の社会増となっています。

(4) ひと分野

- ・ 婚姻数は、昭和 50 年代に年間 50 組前後だったものが次第に減少し、近年では 20 組弱程度となっています。
- ・ 未婚者の割合は増加傾向にあり、平成 27 年(2015 年)は男性の 44.1%、女性の 26.1%、全体では 35.7%が未婚者です。女性に比べ男性の未婚者が多く、男性は 30 代から 60 代前半までの 5 歳刻み年齢階級別で各階級 50 人強、単純平均すると 1 年齢あたり 10 人ほどの未婚者がいることになります。
- ・ 出生数は、昭和 50 年代の年間 100 人前後から減少傾向にあり、近年では 20 人前後です。
- ・ これに伴い、小学校児童数、中学校生徒数も減少し、平成 30 年(2018 年)には小学生が 182 人で 1 学年あたり単純平均約 30 人、中学生が 119 人で同じく約 40 人です。
- ・ 中学校卒業後の進路は、近年は全員が高等学校に進学しています。
- ・ 住田高校卒業後の進路は、平成 30 年(2018 年)は、卒業生 38 人中、11 人が大学進学、12 人が専修学校等進学、15 人が就職となっています。
- ・ 国民健康保険の被保険者数は減少傾向にあり、平成 30 年(2018 年)は 1,292 人と、住民基本台帳人口の 23%の方が加入しています。

- ・ 後期高齢者医療保険の被保険者は、平成 29 年(2017 年)は 1,501 人が加入し、1 人当たりの医療費は 64 万円ほどとなっています。
- ・ 介護保険の被保険者数は微減傾向にありますが、65 歳から 74 歳までが減少、75 歳以上が増加傾向にあります。
- ・ 要介護等の認定者数は増加傾向にあり、平成 28 年(2016 年)は 498 人と被保険者の約 2 割が認定を受けています。これに伴い、サービス受給者数も増加傾向にありますが、平成 27 年(2015 年)からは減少に転じています。
- ・ 死亡者数は年間 100 人強程度で、平成 29 年(2017 年)の死亡者数 113 人のうち 28 人が悪性新生物(ガン)、26 人が心疾患、10 人が脳血管疾患で亡くなっています。

(5) まち分野

- ・ ごみの排出量は、平成 18 年(2006 年)まで増加傾向にありましたが、近年は年間 1,300t 前後となっています。また 1 人 1 日当たり排出量も同様に推移しており、直近では 634g/人日、一般的なマンガ週刊誌 1 冊分程度となっています。
- ・ 水洗化人口は、平成 15 年(2003 年)から公共下水道が供用を開始したことで増加傾向にあり、水洗化率は約 5 割となっています。
- ・ 建築物は年間 30 棟前後が建築されています。
- ・ 住宅は、83%の方が持家、9%の方が町営住宅であり、築 40 年前後のものが大きな割合を占めています。
- ・ 町道の延長は 90km 程度で近年横ばいに推移していますが、改良が進み面積は徐々に増加しています。
- ・ 交通量は、赤畑地点(国道 107 号)が最も多く平成 27 年(2015 年)の調査では、昼間 12 時間に 9,419 台、次いで大崎地点(国道 107 号)が 6,077 台、小股地点(国道 107 号)が 5,743 台でした。
- ・ 路線バスのうち、町コミュニティバスの利用者は、減少傾向にあります。川口上有住駅線で年間延べ約 12,000 人、八日町遠野駅線で同じく 5,600 人の方が利用しています。1 営業日当たりの利用者(全便運休となる日を除く営業日で割り返した利用者数)は、川口上有住駅線が 52 人、八日町遠野駅線が 19 人です。
- ・ 免許人口は、20 代後半から 50 代までは 95%以上の方が免許を保有し、60 代以降保有率は下がりますが、75~79 歳では 54.4%と、半数以上の方が免許を保有しています。
- ・ 自動車保有車両数は、4,600 台ほどで、乗用(普通車)の割合が減少し、軽自動車の割合が上昇しています。平成 30 年(2018 年)で、乗用が 42%、軽自動車が 47%です。
- ・ 交通事故発生件数は、昭和 56 年(1981 年)の 27 件、平成 9 年(1998 年)、平成 10 年(1999 年)のそれぞれ 23 件が多く、近年では 10 件前後で推移しています。
- ・ 火災発生件数のうち建物は、平成 5 年(1983 年)の 6 件が最も多く、年間数件程度で推移しています。
- ・ 救急の出動件数は、平成 30 年(2018 年)は 410 件で、そのうち約 2 割の 79 件が不搬送であり、搬送を要しない出動が増加傾向にあります。

- ・ 消防団員数は、380 人前後で推移していますが、平均年齢や平均勤続年数は上昇傾向にあります。
- ・ 刑法犯罪件数は、平成 13 年(2001 年)の 46 件が最も多く、平成 30 年(2018 年)は 7 件です。
- ・ 昼間人口、夜間人口を比べると、夜間の方が 382 人多く、年齢区分別にみると以下の通りで、町外で働いている人が多いためと推察されます。

年少人口	夜間 482 人	→	昼間 476 人	(△6 人)
生産年齢人口	夜間 2,873 人	→	昼間 2,515 人	(△358 人)
老年人口	夜間 2,365 人	→	昼間 2,347 人	(△18 人)
- ・ 日中住田町にいる人がどこに住んでいるかを見ると、住田町以外の方は、陸前高田市の方が 285 人、大船渡市の方が 246 人、遠野市の方が 76 人です。
- ・ 住田町に住んでいる人が日中どこにいるかを見ると、町外では大船渡市が 472 人、陸前高田市が 273 人、遠野市が 173 人です。
- ・ 地価は下落傾向にあり、特に世田米字世田米駅では平成 9 年(1997 年)37,100 円/m²だったものが、平成 30 年(2018 年)は 17,600 円/m²と、20 年ほどの間で 53% 下落しました。

(6) しごと分野

- ・ 就業者数は、昭和 60 年(1985 年)には 4,839 人(就業率 67.6%) だったものが、年々減少し、平成 27 年(2019 年)には 2,850 人(同 54.4%)まで減少しています。
- ・ 完全失業率は上昇傾向で推移し、平成 22 年(2010 年)には 7.6%となりましたが、平成 27 年(2015 年)は 3.1%と低下しています。これは東日本大震災(以下「震災」)の復興需要によるものと考えられます。
- ・ 就業者を年齢別にみると、20 代から 50 代前半までは 90%前後となっており、50 代後半から徐々に低下しますが、70 代で 275 人、80 代以上で 84 人の就業者がいます。
- ・ 男女別で見ると、20 代から 50 代までで男性はおよそ 90%、女性はおよそ 80%の方が就業者で、女性は 60 代から家事の割合が増加します。
- ・ 産業分類別で見ると、第 3 次産業の数はほぼ変わりはありませんが、第 1 次産業のうち農業、第 2 次産業のうち製造業と建設業は従業者数が減少しています。
- ・ 気仙管内の有効求人倍率は、震災前の 0.50 程度だったものが震災後に急激に上昇し、平成 26 年(2014 年)12 月には 2.14 まで上昇しています。
- ・ 町内総生産は、平成 18 年(2006 年)の 159 億円から、平成 28 年(2016 年)は 214 億円と 34%増加しています。第 3 次産業は横ばいですが、第 1 次産業と第 2 次産業が増加しています。
- ・ 町内総生産額から算出される人口 1 人当たり町民所得は、平成 18 年(2006 年)の 177 万円から、平成 28 年(2016 年)は 261 万円に増加しています。
- ・ 個人住民税の納税義務者数は景気の影響によっておよそ 2,000 人から 2,500 人の間で増減していますが、東日本大震災後の平成 24 年(2012 年)から増加し、近年では減少傾向にあります。

また、課税対象所得の額は、平成9年(1997年)の636億円まで急激に上昇しましたが、その後減少し、納税義務者数と同様、震災後から上昇に転じました。平成9年(1997年)までの上昇は納税義務者数の増加に比べ急激であることから、1人当たりの所得が増加したことを意味し、直近の令和元年(2019年)は242万円となっています。

- ・ 法人住民税の納税者数は、100社前後で推移していますが、法人税割額は震災後増加傾向にあります。
- ・ 町内の企業数は減少傾向にあり、特に卸売業、小売業が減少しています。
- ・ 同じく従業者数も減少傾向にあり、農業、林業、製造業、卸売業、小売業が特に減少していますが、建設業は増加傾向にあります。
- ・ これらの傾向は、事業所単位でみた事業所数や従業者数でも同様です。
- ・ 企業単位の売上高は、平成28年(2016年)で282億円であり、このうち最も多い製造業が63%の177億円、次いで農業、林業が11%の30億円となっています。
- ・ 農業については、農家数は減少傾向にあり、特に販売農家が減少し、自給的農家、土地持ち非農家は増加傾向にあります。
- ・ 平成27年(2015年)の農家数1,045戸のうち販売農家347戸を専業兼業別にみると、専業農家は93戸、第1種兼業農家は34戸、第2種兼業農家は220戸となっており、第2種兼業農家が大幅に減少しています。
- ・ 販売金額では75%が50万円未満、経営耕地面積では87%が1ha未満、年齢では94%が50歳以上で60歳以上は78%となっています。
- ・ 法人化している農業経営体は10経営体で、このうち8経営体が株式会社です。
- ・ 耕作放棄地の面積は増加しており、平成27年(2015年)で248ha、町運動公園(野球場、テニスコート)の約150個分に相当します。
- ・ 畜産の経営者数、飼養頭(羽)数を平成27年(2015年)で見ると、乳用牛は5経営体122頭、肉用牛は10経営体(飼養頭数は公表値なし)、豚は6経営体39,725頭、ブロイラーは18経営体38,177羽となっており、特に肉用牛は大きく減少しています。
- ・ 平成29年(2017年)の農業産出額56億円のうち、豚が58%の32億円、ブロイラーが35%の19億円となっており、これに牛を含む畜産全体で95%を占めています。耕種では米が最も多く2,000万円となっています。
- ・ 市区町村別の順位で見ると、耕種ではいちごが県内で9位と高く、畜産では豚が県内3位、全国42位、ブロイラーが県内8位、全国45位となっています。
- ・ 林業では、林家数と保有山林面積は共に減少傾向にあり、平成27年(2015年)は703戸4,608haとなっています。このうち林業経営体は10経営体で大幅に減少しており、保有山林面積規模別にみると5ha未満が大幅に減少しています。
- ・ 林業経営体の素材生産量は、受託・立木買いが大半で、年間およそ50,000m³ほどです。
- ・ 小売業の事業所数は平成28年(2016年)で52事業所、従業者数は187人で、およそ10年前の平成19年(2007年)に比べると事業所は35事業所、従業者数は約100人の減となっています。

- ・ 製造業の事業所数は 20 事業所前後で推移していますが、従業者数は減少傾向にあります。平成 30 年(2018 年)では、17 事業所、従業者は 593 人です。一方出荷額は、平成元年(1989 年)の 84 億円が平成 30 年(2018 年)には 135 億円となり、増加傾向にあります。
出荷額の内訳をみると、食料品製造業が 57%の 77 億円と最も多く、次いで木材・木製品製造業が 33%の 45 億円となっています。
- ・ 観光では、入込客数は減少傾向にあるものの、ここ数年は 8 万人台で推移しています。月別でみると 8 月が最も多く、12 月から 4 月までが少なくなっています。平成 30 年(2018 年)と平成 22 年(2010 年)とを比べると、2 月から 5 月までの落ち込みが激しく、9 月から 11 月までが若干の増となっています。

第3章 基本目標（ビジョン）

第1節 基本理念

- ・ 前章の現状などから勘案し、基本理念を次のとおり定めます。

豊かな緑と水に育まれ

安らぎとにぎわいが調和する

共生のまち 住田

- ・ それぞれの文章は以下の考え方によるものです。
- ・ 豊かな緑と水に育まれ
 - ・ 自然がこの町の宝であり、「人」も「風景」も「産業」も「文化」も、この豊かな自然の中で育まれていくものだという意味です。
 - ・ 「培う」ではなく「育む」という言葉を用い、「人」特に「子供たち」を育みこの町を未来へつなぐという意味を込めました。
 - ・ 特に町の良さとして現れていた森林の「緑」と川の「水」という言葉で自然を表現しました。
- ・ 安らぎとにぎわいが調和する
 - ・ 人口が減少する中において、穏やかさだけを追求すると物寂しくなるし、にぎわいだけを追求すると疲労感につながる。
大切なのはその両者が「調和」することにあるという意味です。
- ・ 共生のまち 住田
 - ・ 「共生」には、人と人が支え合う、という意味のほかに、人と自然が、自然と産業が、人と自然と文化が、といった様々なものがつながり支え合う、という意味を込めています。
 - ・ 近年、各種計画等において「すみた」とひらがな表記するものもありますが、町の名前の成り立ちが有住の「住」と世田米の「田」からできていることに立ち返り、町全体「オール住田」で町づくりを進めるという意味を込め、漢字表記としました。

第2節 基本的方向

- ・ 基本理念を具体化するため、各分野における基本的方向を次のとおり定めます。

【ひと分野】

出会い、生まれ、育ち、働き、老いる、健やかでいきいきした人生が実現するまち 住田

【まち分野】

豊かな自然に囲まれ多彩な人びとが暮らし合う心安らぐまち 住田

【しごと分野】

この町の風土を活かした産業が町の活力を生み出すまち 住田

第4章 政策分野の取組方向（アクションプラン）

- ・ 前章で定めた基本目標を実現するため、分野ごとに取組みの方向を次のとおり定めます。
- ・ 各分野においては、それぞれの具体的な目標として、重要業績評価指標（KPI）を定めます。

第1節 「ひと」分野

1. 結婚・子育て

(1) 結婚

- ・ 結婚は個人の感情に深く関係する領域であり、行政支援を求める声が多いものの、効果的な支援が難しい分野です。
- ・ これまでの取組みの反省から、結婚支援は気仙地区や県内といった広域での取組みを推進します。

【KPI】 ●●●

【部門別計画】 ●●●

(2) 妊娠・出産

- ・ 思春期における安定した心と健全な身体を育成します。
- ・ 妊娠を望む方がその望みを叶えられるよう、必要な支援を行います。
- ・ 妊婦が穏やかな妊娠期を過ごし安全な出産を迎えられるよう、必要な支援を行います。

(3) 子育て

- ・ ゆったりと安定した気持ちで子育てができる環境づくりを進めます。
- ・ 子供がいても働くことができる環境づくりを進めます。
- ・ 子供たちが心身ともにたくましく、のびのび育つことのできる環境づくりを進めます。
- ・ 保育園では、豊かな自然にふれあい明るく思いやりのある子に育つような就学前教育を実施します。

2. 教育

(1) 学校教育

- ・ 地域の未来を主体的に創造できる力を育成するため、知性と実行力のある心豊かでたくましい児童生徒を育成します。
- ・ 出生数の減少によって小中学校の児童生徒数が減少していることから、学校統合を含めた今後の学校教育環境のあり方について検討を進めます。
- ・ 町内唯一の高等学校である住田高校を存続させるため、魅力ある学校環境づくりを進めます。

(2) 生涯学習

- ・ 生涯を通して学びあうことは、個人の人生を豊かにするだけでなく、地域社会の豊かさにもつながることから、生涯学習の取組みを進めます。
- ・ 町内5つの地区公民館には専任の公民館主事を配置し、町の生涯学習の方針に沿った地区ごとの取組みを進めます。

3. 健康

(1) 健康増進

- ・ 病気にならない、あるいは病気の重症化を防ぐためには疾病予防が重要であることから、一人ひとりが自らの健康状態を正しく理解し主体的に健康づくりに取り組む環境づくりを進めます。

(2) 医療環境

- ・ 人口が減少する本町において医療機関の新規開業が厳しい状況を踏まえ、福祉や介護の領域とも連携した環境づくりを進めます。

4. 福祉

- ・ 高齢者や障がい者を含むすべての住民が、住み慣れた地域で安心して暮らせるように、一人ひとりを認め合い、住民と関係機関、行政とが協力し合う、人づくり、仕組みづくり、基盤づくりを進めます。

5. 介護

- ・ 年老いても高齢者が尊厳を保持し、住み慣れた地域で元気に安心して暮らせるよう、要介護度の重度化を予防するとともに、よりよい介護の環境づくりを進めます。

第2節 「まち」分野

1. 環境

(1) 自然環境

- ・ 本町にとってかけがえのない資源である自然環境を次の世代につなぐため、町民や事業者、行政などが自らの責務を認識し、一体となって保全する取組みを進めます。

(2) こざっぱりとした環境

- ・ 自然環境や町並みなどが作り出す景観は、人々に安らぎと快適さをもたらすことから、これを守り育てるための取組みを進めます。

- ・ 人口減少により放置される空き家の増加が懸念されることから、その対策のための取組みを進めます。

2. 住まい

(1) 住環境

- ・ 子育てや介護といった生涯の段階に応じた住環境で暮らせるよう、円滑な住み替えのための方策を検討します。
- ・ 町内に不動産業者がいないことにより、土地や建物の情報入手が困難になっていることから、これを補う仕組みづくりを検討します。

(2) 町営住宅

- ・ 町営住宅は、支援が必要な方への住宅のセーフティネットとしてこれまで住まいを提供してきましたが、少子高齢化といった人口構造の変化や建物の老朽化といった背景を踏まえ、適切な供給量を検討し、新たな整備と適切な管理を進めます。

(3) 空き家活用

- ・ 人口減少により空き家の増加が懸念されることから、住まいを必要とする方に斡旋する取組みを進めます。

3. 社会基盤

(1) 上下水道

- ・ 上下水道の新たな整備については、地域からのニーズに応じて、その都度検討していきます。
- ・ 人口減少により利用者が減少する中であって、今後老朽化した施設の更新が控えていることから、中長期的な経営方針のもとで、安定した事業運営を進めます。
- ・ 上下水道の区域外の地域に対しては、施設などの整備に支援することで、適切な住環境の確保に取り組めます。

(2) 情報通信

- ・ テレビの視聴や高速インターネット回線の利用のため整備した地域情報通信基盤施設については、今後老朽化した施設の更新が控えていることから、中長期的な更新計画のもとで、安定した施設の維持管理を進めます。
- ・ 町の自主放送については、行政からの情報提供や町民同士の情報交流の機会であることから、引き続き親しまれる番組づくりを進めます。

(3) 道路

- ・ 町道の認定や改良については、町民の日常生活の利便性や産業振興の展望など、総合的な見地から優先順位を判断し、計画的に進めます。

- ・ 路面や橋りょうなどの老朽化などに伴う維持修繕については、危険度や利用度などから優先順位を判断し計画的に進めるとともに、緊急を要するものについては、町内事業者とも連携し速やかに対処します。
- ・ 冬期間の除雪については、事業者のオペレーター不足が懸念されることから、町民の協力も視野に入れ、体制の維持に取組みます。
- ・ 国道や県道については、町民の利便性はもとより、広域的な有用性なども検討し、国や県などに対して整備を要望していきます。

4. 交通

(1) 公共交通

- ・ 通院や買い物といった日常生活の不便さは、公共交通の利便性が高まることで解消できる可能性があることから、現在の町営路線バス以外の手段も含めた交通体系のあり方を総合的に検討します。
- ・ 一方で、公共交通は民営で存続することがより望ましいことから、事業者と連携し路線の維持に取組みます。

(2) 移動支援

- ・ 路線バスでは、いわゆる“ドア・ツー・ドア”（ドアからドアまで）の移動サービスが難しいことから、戸別の移動支援については、住民団体の自主的な取組みに対して支援します。

5. 安全

(1) 消防・防災

- ・ 近年、想定外といわれる規模の災害が全国で頻発していることから、あらゆるリスクから町民の生命、身体、財産を守るため、住民団体や関係機関と連携し対策を検討、実施します。
- ・ 特に平日日中は町外に通勤する町民が多く、平時からの防火意識や防災意識の向上が重要であることから、適切な情報提供とともに住民団体の取組みを支援します。
- ・ 消防団については、団員の確保に関する取組みを進めるとともに、有事に備えた設備などの維持更新、整備を進めます。

(2) 交通安全

- ・ 安全で安心な道路交通環境を維持するため、交通事故の減少と死者ゼロに向けた「人優先」の交通安全思想を普及します。
- ・ 町道管理と併せて交通安全施設を点検し、適切な維持管理、整備を進めます。

(3) 防犯

- ・ 近年は窃盗などの犯罪のほか、インターネットや電話を使った詐欺などの知

能犯が社会問題化していることから、防犯思想を普及します。

- ・ 防犯灯などの施設は、住民団体と連携し、適切な維持管理、整備を進めます。

(4) 消費生活

- ・ 店頭販売以外の商取引が拡大したことなどによって消費を巡るトラブルが社会問題化していることから、適切な情報提供や相談対応に取り組めます。

6. 地域コミュニティ

(1) 住民活動

- ・ 本町の住民自治の基本単位は自治公民館であることから、主体的な自治公民館活動に対し支援します。
- ・ 人口減少などにより自治公民館での取組みが困難なもの、またはより広い区域で取組んだほうが効果的なものなどは、地区公民館単位で住民が組織する地域協働組織が担い、行政はその活動に対し支援するとともに、まちづくりのパートナーとして協働の体制づくりを進めます。
- ・ これら地縁による住民活動の他、任意の住民活動団体の取組みに対して支援します。
- ・ 人口が減少する一方で、住民活動団体や町が主管する各種協議会等は増加傾向にあることから、担い手の負担を軽減するため、分野を横断したすべての団体などのあり方について検討を進めます。

(2) 住民交流

- ・ 町外からの移住者や外国人居住者が地域コミュニティに円滑に溶け込めるような環境づくりを進めます。
- ・ 移住した定住人口でもなく、観光に来た交流人口でもない、地域や地域の人々と多様に関わる人々である「関係人口」の拡大と町民との交流の機会を創出する取組みを進めます。

第3節 「しごと」分野

1. 農業

- ・ 農家数が減少し耕作放棄地が増加する一方で、農業産出額は畜産の増加により全体としては増加傾向にあります。
- ・ また、耕作放棄地を抱える一方で、本町の畜産はその飼料の多くを海外から調達しています。
- ・ こういった強みと弱みを背景とした取組みとして、耕畜連携による循環型農業の構築に取り組めます。
- ・ また、規模の大きくない農地が点在する本町では、生産物の販売だけで収益を上げることは困難なことから、加工や販売を組み合わせた、いわゆる六次

化の取組みを進めます。

- ・ 担い手確保については、円滑な就農につながるよう支援します。
- ・ 農地の維持管理や農作業の受委託、農業機械の所有管理、鳥獣害対策などを集落や会社法人などの集団化を図り、農業経営を効率化する取組みを進めます。
- ・ 遊休農地を意欲ある担い手が活用できるよう、農用地の流動化を進めます。
- ・ 手入れの行き届いた田園風景は、本町の豊かな景観の一部であることから、農地の維持保全に対する取組みを支援します。

2. 林業

- ・ 林業は、木材の販売によって所得を得るという経済活動だけではなく、そのために手入れされた森林は国土の保全や水資源のかん養、大気の浄化など公益的な効果をもたらします。
- ・ この公益的な効果が発揮されるためには、その土台となる林業経済がしっかり回ることが前提となります。
- ・ 従来からの「川上から川下までの林業振興」（森林管理→素材生産→加工供給→住宅建設、木材利用）をさらに進めます。
- ・ 「環境との調和」という本町の林業ブランドを確立するため、森林認証制度を活用した森づくりや木質バイオマスエネルギーの普及、「森林（もり）の科学館構想」の実現に取組みます。

3. 商工業

- ・ 町内で起業しようとする意欲ある事業者や、町内に事業所等を立地しようとする企業等に対しては、町民の雇用の場を確保する観点から、必要に応じ支援します。
- ・ 小売業、特に食料品や日用品など日常生活に必要な物を買える場所が身近にあることは、町民の生活利便性を保つためには必要であることから、移動販売などを含めた町民の買い物環境の維持のための取組みを進めます。

4. 観光

- ・ 従来からの観光スポットであった種山ヶ原、五葉山、滝観洞などに加え、国登録有形文化財に登録された「まち家世田米駅」を含む世田米中心地域の歴史的町並みや産金、産鉄といった歴史文化的資源を有機的に連携させ、広域的視点をもった交流人口の拡大に取組みます。

第5章 重点施策（総合戦略）

- ・ 本章では、人口ビジョンで導き出された次の課題を解消する重点施策を次のとおり定めます。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・ 出生率の上昇・ 社会増減ゼロ・ 20代前半の人口の増加・ 15～49歳女性の人口の増加 |
|--|

第1節 「医」

- ・ 医療資源が限られている本町では、このような環境を補う取組みが町民の健やかでいきいきした暮らしにとって重要です。
- ・ このことから、「医」の重点施策として次の施策に取り組めます。

- ◇ 訪問看護ステーションの運営
- ◇ 保健、医療、福祉、介護の連携
- ◇ 糖尿病の予防

【KPI】 ●●●

第2節 「食」

- ・ 「食」は生命の源であり、楽しみや文化、健康維持としての側面も持ち合わせています。
- ・ これらの要素は、食材や食事といった形で提供されることでビジネスとして成立し、町の活気につながります。
- ・ このことから、「食」の重点施策として次の施策に取り組めます。

- ◇ 耕畜連携による農業振興
- ◇ 農業、林業、商工業が連携した商品開発

【KPI】 ●●●

第3節 「住」

- ・ 町内への定住や町外からの移住に最低限必要となるのが住まいです。
- ・ 豊かな自然環境に囲まれた快適な住環境の提供が町民の安らぎや町外への魅力の発信につながります。
- ・ ただし、町内には不動産事業者がいないため不動産情報の入手が困難であったり、人口減少による空き家の増加が懸念されています。

- ・ このことから、「住」の重点施策として次の施策に取り組めます。
- ◇ 住宅ニーズに基づいた魅力ある住まいの供給（空き家活用、町営住宅新築等の総合的な検討実施）
- ◇ 不動産情報の流通や空き家対策などを進めるための仕組み作り
【KPI】 ●●●

第6章 行政運営の基本方針

第1節 現状と見通し

・

第2節 基本方針

・

第3節 取組方向（アクションプラン）

・

資料編